

イエスの事業は人間性の回復であつた。「人間の藝術」であつた。講義や、石塊に何の血があらう。路上の小児は「宇宙神」の最大傑作では無いか、イエスはその謙遜であつた。イエスはデカダンのデカダ、藝術狂の藝術狂であつた。彼は罪人の妻にも愛を認め、醜態の群にも交つて、その杯を呑み給はなかつた。あゝ、聖なるデカダよ。汝が二十世紀の教員に生れたならば、汝は、その第一日に破門せられるであらう。イエスの救ひは罪人と失敗者と極貧者にあつた。イエスは、その人間性の回復に最大傑作を見た。「凡そ、人、イエスキリストにある時には新しく造られたるものなり」である。

イエスは人間が考へつかぬ創作を遂げた。それで我等は彼を神より来たといふ。彼は神に神の如く人間の中に歩いた。彼の働いたものは凡て謙くなつた。近代資本主義に必要なものは、實にその神らしきことであり、器械の壓迫より神の子の開放であり、資本と利子の喘ぎより、神の子を教導することである。そして、他面には、神の如く神とし、神の如く創作し、生産し、消費することである。

なつて表る。肉の生活そのもの、聖化は、イエスの化身主義のみによつて、得られ真の人間藝術はその化身運動によつて完全する。未來派も、立體派も、世界を救ふことは出来ない。然しイエスの化身主義は宇宙の破壊を修羅して行く唯一の法則であり、運動である。

近代資本主義は、機械と物質に没落する。普遍品となれば、「三十六歌仙」の畫が三十五萬圓もする。然し、イエスの投資は人間とその精神に向つてである。實際、「人もし、世界を得ることも、その生命を失はば何の益あらんや」と、「人間經濟」を離れて物質經濟のみの資本主義で、文明をいくら繰返した處で結局は駄目である。物から、人間は出て来ない。

戦後の世界的社會制度の一大改新は既に來て居る。之からは、多く物を持つて居るものが、貧乏を得べきもので無くして、生きて居る人間が貧乏を得るのである。労働者も社會組織に權利を得るのだ。それを、日本はいつまで、時代は遅れても無産階級を壓迫し、また教會もいつまでこの階級を捨て、顧みないで居る積であ